

また、ホクレンは16年度に導入した生乳の入札取引を17年度も行う。入札数量は16年度の2倍となる6万トン

を予定している。

農業ガイド1088号

2016年12月17日

酪農ヘルパー不足深刻 十勝7割が指摘

ＪＡ北海道中央会と道は、道内の酪農ヘルパー利用組合を対象に行ったアンケート結果をまとめた。道内の約6割、十勝管内の約7割の組合で専任、臨時ヘルパーが不足していると回答。農家の利用ニーズは増える一方、主産地ではヘルパー不足が深刻化している実態が浮かび上がった。

アンケートは、道酪農ヘルパー事業推進協議会に加盟する90組合（うち十勝管内17組合）を対象に2月に行い、80組合（同14組合）から回答があった。

ヘルパーの人数について、「充足している」と回答したのは専任ヘルパーで43.8%、臨時ヘルパーで41.3%。残りの約6割が不足していると考えていることが分かった。十勝の14組合では専任が28.6%、臨時は35.7%にとどまり、「足りていない」と考えている組合が全道に比べて多い。不足感は十勝の他に根釧や宗谷など酪農の主産地で顕著になっている。

人数減も利用増

不足している原因では、「募集に人が集まらない」が49.3%と半数近くを占め、「雇用後短期間で離職してしまう」が16%で続いた。

道畜産振興課によると、2015年8月1日時点の道内の酪農ヘルパー人数は917人（専任521人、臨時396人）。ピーク時の05年から2割近く減った。専任は微増傾向にあるものの、臨時の減少幅が大きい。一方、1戸当たりの利用日数は14年が21.98日で、この5年で4日間増えた。ヘルパーは減っているが、農家の利用ニーズは増えている。

非農家出身育成を

ヘルパーが減っている背景には、就農前の後継者が研さんを兼ねて他牧場で臨時ヘルパーとして働くケースがあったが、酪農家の数が減少して後継者も減っていることなどがある。ヘルパー利用の増加は、経営者や従業員が休日を取ることが以前より増えたことや、酪農家の高齢化で病気やけがによるヘルパー利用が増えたことが考えられる。

同課は「ヘルパー要員の充足に向けては新規と長期の両面の雇用確保策が求められている」と分析。非農家出身のヘルパーを対象にした人材育成や、安定した組合経営が必要だとし、「酪農経営安定化支援事業の継続など国に支援の充実を要望していきたい」としている。

酪農ヘルパーの人数と充足状況

酪農ヘルパーのアンケート調査より

		人数	「充足」と回答した割合
全道	専任	446人	43.8%
	臨時	306人	41.3%
十勝	専任	124人	28.6%
	臨時	84人	35.7%

ノベルズ 幕別大規模牧場計画 20年売り上げ300億円

2017年1月24日

【幕別】ノベルズグループ（上士幌町、延與雄一郎社長）は23日、幕別町役場で記者会見を開き、駒島地区に建設する大規模酪農牧場の計画を正式発表した。新牧場は飼料（デントコーン）の生産を町内の畑作農家に委託、バイオガス発電で出る液肥を還元し、地域循環型の経営モデルを描く。延與社長は「地域との共生を図り、農家の所得向上と町の活性化につなげたい」と述べた。

ノベルズグループの2016年12月期の総売上高は約140億円（見込み）。新牧場の開設に伴い20年の総売上高は300億円（うち酪農は100億円）を見込む。

新牧場は町弘和106番地周辺の民有地26ヘクタールに、牛舎20棟、堆肥舎1棟、ロータリーパーラー1カ所、パラレルパーラー1カ所を整備し、4300頭を飼養する。国内最大級の800キロワット発電のバイオガスプラントも併設する。

昨年10月に設立した「幕別デーリィファーム」が運営。投資額は約73億円で、同グループからの出資のほか酪農事業の内部留保を活用、金融機関からの支援も受ける。5月に着工し、3カ年で段階的に整備する。年内に一部操業を始める。

乳用牛は自社生産を中心とし、2020年時点での生乳出荷量は4万7000トン进行想定。同じグループの「ノベルズデーリィファーム」（清水町）が同年時点で3万8000